■ご挨拶■

第75回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第75回日本医学放射線学会総会　会長
北海道大学大学院医学研究科病態情報学講座核医学分野　教授
玉木　長良

第75回日本医学放射線学会総会を開催するにあたり，ひとことご挨拶申し上げます．

本総会は，初回から数えて3四半世紀を迎える記念すべき大会となりました．この節目にあたりこれまでの歩みを振り返りつつ，次の四半世紀の発展を占う内容を企画しました．これからの総会活動は，世界の視点にたった地球規模の繁栄が求められるでしょう．その意味でポスターにはあえて地球をデザインしてみました．この総会を通して日本から世界に向けて数々のメッセージを発信すると同時に，海外からの参加者と共に総会のグローバル化をさらに加速したいと願っています．総会の合同特別講演には，女性宇宙飛行士として活躍された山崎直子さんにお願いしています．山崎さんには“宇宙，人，夢をつなぐ”と題した夢のあるご講演をいただく予定です．この総会でもグローバルな視点で，人や夢をつないで行けるような放射線医療を推進したいものです．

総会の主題は”Instructive, Innovative, and Integrative Radiology”（まなび，のばし，つなげる放射線医学）としました．これからの放射線医学の発展には，この3つが大きな要素となると考えます．まず次世代を支える若手人材育成（Instruction）が放射線医学発展に不可欠です．毎年教育講演には，多くの聴衆が集まります．教育セッションには今年も魅力ある教育的内容を盛り込んでいます．これからを支える若手放射線科医はもちろん，日進月歩を続ける新しい放射線医療を学んでいただきたいものです．また新しい技術革新（Innovation）が，今後の放射線医学の発展に重要であることは言うまでもありません．この最先端の放射線医学の技術を紹介し，その医療の現場への応用について議論する総会の役割は重要性を増します．さらには外に視野を広げて日本放射線技術学会，日本医学物理学会をはじめ，関連するさまざまな医療の分野や理工系や生命科学系との連携を取り，多くの臨床の場で活用されるような橋渡しが必要となります．また国内外の方々との連携も重要です．その意味で横断的な連携（Integration）がこれからの放射線医学の発展の鍵を握ると考えます．

本総会では，日本医学放射線学会，日本放射線技術学会，および日本医学物理学会との合同企画として，「次の25年の放射線医学の進歩を見据えて」と題した合同シンポジウムを企画しました．ここでは次世代を担う若手の先生方を中心に，今後の発展に向けた自由な意見交換をお願いしています．このシンポジウムに参加される若手放射線科医が，めでたく医学放射線学会創立100周年を迎えるまで，これからの日本の医学放射線学会をけん引してくれるものと期待しています．3つの学会の若手専門家が一同に会して，放射線医学の課題や展望を語り合う魅力ある場になれば，と思います．

日本医学放射線学会は，これまで総会の国際化（Globalization）に力を注いできました．すでに一般演題の発表スライドは英語にしています．講演発表も昨年には40%程度が英語化されています．これまでの取り組みが功を奏して，海外からの参加者が増加しています．先日一般演題募集を締め切りましたが，600題の一般演題の中で，海外からの演題が27にも上りました．今回は新たに9つあるシンポジウムの英語化に着手しました．これをけん引するため，ほとんどのシンポジウムの直前には，その内容に関連の深い海外からの講演者にKeynote Lectureをお願いしています．Keynote Lectureに引き続いてシンポジウムを開催することにより，Keynote Lectureを担当される先生にもシンポジウムの総合討論に参加していただけます．シンポジウム司会の先生にこの趣旨をお伝えした結果，4つのシンポジウムでの発表や総合討論がすべて英語で行われることになりました．他方，教育中心のシンポジウムや，本音を日本語で語りたいという要望にも配慮しました．そのような内容のシンポジウムは教育講演と同様，従来通り日本語での発表にしています．

シンポジウムのテーマとしては，治療のための画像診断，分子イメージングの進歩と治療，肝癌のIVRと画像診断など，分野横断的な内容をできるだけ取り入れるように工夫してみました．まさにIntegrationを意識した試みです．診断，治療，核医学，IVRなど，多種にわたる分野の専門領域の方々が集う総会です．その特徴を活かして各領域の最先端の情報を提供しつつ，お互いに意見交換をして，共通の目標を目指していくような発表につなげていただきたいと願っています．また循環器内科や脳神経外科の先生方にもシンポジウムに参加していただいています．このように領域を超えた異分野の方々と，活発な討論が展開されることを期待しています．

今回の総会では，海外から40名近い招待者をお迎えし，特に海外で活躍しておられる日本人の先生方8名にもご講演いただきます．せっかくの機会ですので，招待講演に加えて次のような特別企画も予定しています．これから海外に向けた活動の展開を希望している若手の参加者を集めて，この8名の方々から留学体験，欧米での放射線診療や研究の現状などを日本語で紹介していただくインフォーマルな特別企画“海外を目指す人へ”です．各々の経験談の紹介と共に，質問や意見交換の時間を十分にとる予定でいます．このセッションに参加される一人でも多くの方々が，海外で活躍しようという動機につなげていただければ，と期待します．

もうひとつの特別企画として，最近注目されているQIBA（Quantitative Imaging Biomarker Alliance）を取り上げることにしました．これは画像診断を単に画像として読影するだけでなく，定量的解析の精度を高める取り組みを行い，新規のバイオマーカーとして臨床に利用しようとする国際的活動です．これを利用することで，装置や解析法に依存しない標準的な画像の指標を得ることができるようになります．日本医学放射線学会でも最近QIBAについての取り組みを積極的に進めています．本企画では日本での取り組みを紹介しつつ，RSNAのQIBAの代表者と意見交換を行う予定です．このような活動を通して，画像診断を利用した最適治療法の選択や的確な治療効果判定への応用など，新しい治療戦略につながると期待しています．

この数年，総会参加者が増加しつつあります．特に国際化を目指して英語での発表，講演が増えているため，アジアを中心に参加者が増加していることも注目されます．企業展示やランチョンセミナーにも今回初めて海外の企業の参画があるようになりました．今後国際化が加速するものと期待しています．会場では4日間常に英語のセッションが継続して設けられています．会場の設営ではシンポジウムや海外招待講演などは，できるだけ国立大ホール，メインホール，あるいは301-303の大きめの会場に集めました．他方，教育講演も多くの聴衆があるため，早朝のセッションの他，収容力のあるアネックスホールに集めています．できるだけ参加しやすい環境に配慮して，部屋割りしています．本総会に参加されたすべての方々が，日常の教育研究活動や診療に役立てていただくと共に，今後の日本の放射線医学の発展に寄与していただけることを願っています．